

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900634		
法人名	アイミ株式会社		
事業所名	グループホームソブエピア(桜の間)		
所在地	稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年2月9日	評価確定日	平成23年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が多く自然の満喫できる場所にあり平屋造りのゆったりとした空間で生活できる環境にある。「家庭的な雰囲気の中で笑いとお楽しみのある生活をします。いつも私たちがそばにいます。できることをふやしましょう」という理念をこころにひとりひとりの希望に応じた様々な面から支援ができるよう日々つとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは緑に囲まれ季節を感じられる自然環境豊かな中に建っている。入居者は自由にホーム内外を散策でき、解放感ある環境の中で自由にゆったりと過ごしている。介護面では第一に入居者の動きや状態をみて、なるべくできることは継続して行えるよう臨機応変に支援し、職員はともにゆったりと寄り添い時間を共有している。入居者、職員の明るく生き生きとした表情から、理念の「笑いと楽しみのある生活」への実践が感じられる。地域とはなかなか交流が図れない環境にあるものの、まずは運営推進会議のメンバーを接点としてホームを知ってもらうことから始め、外出で馴染みの関係づくりにも努めている。ホーム内は職員の創意工夫で満ちており、職員の気づきや頑張り、工夫には圧倒される。今後も入居者をしっかりと観察し介護の質を高めていきたいと管理者は考えており、チームワークの良さや良好な関係がうかがえる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き 生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出 かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにお おむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面 で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサ ービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応 じた柔軟な支援により、安心して暮 らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り後管理者と職員で理念を唱和している。開設当初のものをわかりやすく実践しやすくしたため浸透している。いつも理念を頭におき「家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせる」ホームづくりに取り組んでいる。	開設当初の理念を職員と一緒に実践しやすい言葉にかえ、多くの場所に掲示している。職員は主旨を理解し手を出し過ぎず個々のできることを継続して行えるよう寄り添いながら、笑いと楽しみのある生活の実践に努めている。地域との相互理解は、現場を見てもらうことで地道に築いていきたいと考えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近辺に民家がなく地域とのつながりがなかなか築けず交流のあるのは喫茶店、ボランティア訪問くらいだったが今は保育園との交流も実現した。また運営推進会議をおこなうようになり町内の方とも顔なじみになれた。	年2回保育園児との交流で歌や楽器演奏、手遊びを楽しんでいる。絵手紙、地元歌手の歌、フラダンス、着ぐるみ、オカリナ、落語など交流を中心とした多種多様なボランティアの訪問がある。町内会に加入しているが、人家が少なく回覧板は来ない。ホームの広い敷地を散歩したり、外出の帰りに近所の喫茶店に立ち寄ることがある。消防署や警察との協力関係もできている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ地域貢献までいたっていない。運営推進会議を通じて施設を知っていただくことができたと感じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のときには施設内の見学・説明も行って理解や支援のきっかけにはなっている。また施設での取り組みを説明し意見交換の場も設けている。出席しない職員は会議録で確認している。	昨年度の評価結果を踏まえ、今年度は年に6回、市役所高齢介護課の参加も得て開催している。会議では行事報告、ホームや入居者の現況や様子、行事予定等を報告している。家族会も兼ねているので消防訓練、施設見学等を盛り込み、ホームの実情を知ってもらう機会も設けながら、参加者から質問、意見、助言を受けている。職員は会議録で確認している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中には生活保護の方もおられ市との連携は欠かせない。必要に応じて市担当者に相談・助言をいただいている。また運営推進会議への出席も実現した。	区役所へは介護保険の更新申請時に入居者とともに、また、生活保護者の報告で訪問している。施設入居待ちの方の一時ホーム入居について地域包括支援センターや他市行政と連携、協働している。市の連絡会には管理者が参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。安全のため必要最小限のベッド柵の利用などご家族との話し合いのもとおこなっている。その必要性はカンファレンスで繰り返し検討している。	施錠はせず入居者は自由に広い敷地内を散歩している。契約書等で身体不拘束を明示し、安全のための夜間のベッド柵使用は家族との話し合いや会議で繰り返し検討している。言葉による行動の抑制等、精神的苦痛や拘束による弊害を理解し、「言葉づかいに気をつけましょう」と掲示をし、職員の共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法についての勉強はおこなっていないが日頃から虐待に値する行為などの話し合いはある。身体的な虐待のほか言葉遣いや誤解をあたえる行動がないよう注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な利用者がいないため知識が浅い面がある。今後個々の必要性を話し合い関係機関への橋渡しとなり活用できるよう支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には十分な説明をし納得して入居していただいている。今後おこりうるリスク、重度化や看取りの方針などについても説明をおこない納得をえられるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時、家族会などで常に問いかけなんでも言ってもらえる雰囲気づくりをこころがけている。面会簿の横に意見箱を置いているが直接対話して解決している。	運営推進会議と同時開催の家族会や家族の来所時に声をかけ、コミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せるような機会を設けている。毎月職員が入居者の様子や健康面、行事予定を手紙にし写真とともに送付している。出された意見、要望等は記録に残し、内容によっては話し合い検討し、嬉しかったことは伝言ノートで回覧している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映の度合いは別として施設全体としては1年に1回程度ミーティング形式で意見を出す機会がある。職員からの意見を聞く機会はあるが一部の声であったりすべてが反映されていない。	管理者は年1回の全体会議で職員と意見交換を行ない、気づきやアイデアを反映できるようにしている。現在、職員リーダー 介護主任 管理者という体制を確立し、現場のことは職員自らが考え介護に活かしたいと考えている。県の認知症グループホーム連絡協議会に加入し、職員は近隣施設との交流により、サービスの質の向上に向けての意欲や刺激になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に労働条件の見直しをおこない一人ひとりと雇用確認している。また勤務状況などの自己評価とあわせて管理者からの報告をおこない反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、リーダー職にむけては法人として研修の機会を継続して設けてきている。また介護職員にむけては外部研修、講師を招いての研修の機会をつくり参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との交流、グループホーム協会間のスタッフ相互交換など積極的におこなっている。その効果は利用者への支援に反映されていると感じている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人面談をおこない話のなかからニーズや要望を理解できるようこころがけ安心感をもっていただけるようまた柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な両親や家族がグループホームで生活を始めるにあたって不安なく開始できるよう話を良く聞きこれから信頼しあいながらご本人の支援がおこなえるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人をとりまくさまざまな環境やおかれている状況を考慮し他サービスや事業所の提案もおこなっている。ご本人主体の介護サービス制度を念頭においている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを一緒におこない無理押しせず得意なことはすすんでやってもらっている。身体的な面で介護する事はあっても精神面や人生の先輩としては教えていただくことが多々ある。その気持ちは本人に素直に伝えるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月居室担当者が主となり家族へのおたよりで生活の様子を伝えている。「家族との絆を感じながら生活できる」支援を心がけている。家族の状況にも配慮しながら両者の関係が充実するよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や地元施設の訪問などは利用者を誘い知人や友人などとの接点をつくるよう心がけている。施設自体はオープンにし来訪者歓迎の姿勢をとっている。	知り合い、近所の方の面会や電話の取り次ぎの支援で関係継続を図っている。買い物や病院受診等、外出の際の馴染みの人との出会いや行きつけの近所の喫茶店の利用を支援したり、個々に応じた接点を把握し場面づくりをしている。ホーム内ではなく外での理美容なら拒否されない方もあり、日常生活の中で今後も新しく馴染みのところができれば積極的に支援したいと考えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い支えあいながら暮らせるようにそれぞれの様子を察しながらお互い嫌な思いが残らないよう職員が間に入り助言したり空気をかえたりして見守っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移る場合には私たちが把握してきた情報をこまやかに伝え利用者が安心できるようスムーズな連携をこころがけている。また事業所訪問の際には面会にいたり利用者や面会に行ったりしその後も交流を続けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動の中から本人の思いや希望を把握するようこころがけカンファレンスで話し合い意向に添えるよう努力している。個々のペースで生活できるよう支援している。	本人や入居者同志での日常会話、マンツーマンでゆっくりと過ごせる入浴時を利用して意向を拾い上げ、得た情報やつぶやきを記録し、会議で伝え、職員間で共有して実践に繋げている。介護の第一歩は「観察」して個人を知ることとしており、把握が難しい場合は自己決定できる言葉かけや探った想いを介護計画に盛り込み試行錯誤している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期に知りうる生活歴やサービス利用に至るまでの経過に加え入所後も本人や家族とのかかわりの中から新しい情報を引き出す努力をしている。小さな情報も記録に残し共有しケアに役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態やその日の体調に合わせてできることを見極めできる範囲で手伝っていただいている。できるだけ張り合いになることを願っている。利用者一人ひとりにそれぞれ対応できる何かを見つけていくよう心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント、モニタリングを繰り返し本人がより良く生活できるよう話し合いケアに取り入れている。また居室担当者を決め毎月のおたよりを書くにあたりその月での変化を改めて見直したりもしている。	職員は担当制をとっている。家族や担当職員の意見、会議の内容、日々の記録による情報、毎月見直されるアセスメントチェックシート、計画に対する実施状況の結果等を踏まえて、3カ月毎にまた、状況変化時には随時見直している。面会時等で家族の協力も得られる。介護記録にも計画の記載があり、職員が介護計画に沿って日々介護が実施できるよう工夫されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのポイントを確認しながら記録に当たっている。重要な情報源としてケアの流れが途切れないようにし特にいつもと違う様子があれば具体的に伝わるようにし共有、介護計画にも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各人の介護度や家族環境にかなりの差があるのでそれぞれに応じて支援している。状況の変化にも柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設としては毎月1度は必ずボランティアの来訪があり歌謡・大正琴・手品・漫談・絵手紙など一人ひとりが楽しみながら力を発揮している。外部との接触はまだまだ少なくもったかかわりをもてる支援をしていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院が協力病院だが本人や家族の希望に応じなじみのかかりつけ医の利用を続けていただいている。受診に関しても通院の介助や主治医への連携などきめこまやかなおこなっている。	通院は協力医である総合病院となるが、本人や家族の希望を優先し、関係者との連携を密にしている。看護職員を中心に口頭やメモにて間違いのないよう、家族に情報提供を行い安心して受診できるよう支援している。歯科や他科へも適切に受診できるよう配慮している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から状態の変化や異常に気をくばり早期に看護職に相談することができ職員も利用者も安心して暮らすことができる。受診のタイミングもスムーズに対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院には管理者や看護師が出来る限り対応し医療機関や家族と情報交換し連携に努めている。退院後のケアがスムーズにいこう申し送りや話し合いをおこなっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とはアンケートや話し合いで確認しあっている。家族の希望も多様であり状態の変化にあわせて随時話し合いを重ねている。	重度化した場合や終末期の対応についての指針は、入居時に説明をして同意を得ている。体調の変化や状態に配慮しつつ、事業所ができることや本人、家族の希望を聞き取り、現状と今後について話し合い不安の少ない生活を送ることができるよう支援している。地域医療の活用が難しい環境の中で、近隣の事業所等の情報を提供しつつ家族と共に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルはあるが管理者・看護師に任せている部分が多い。実際の場面で全ての職員が対応できるように応急手当など定期的な訓練をしている。また緊急連絡網がうまく機能するかの抜き打ちチェックもしたりしている。少しずつではあるが実践力はついてきていると思う。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が計画をたて年2回3月と9月に訓練を実施している。災害時の備蓄品として卓上コンロ、飲料水は備えているが十分とはいえない。	避難、消防訓練は消防署の協力を得て年2回実施している。通報訓練、初期消火、避難誘導、人工呼吸法、AED、窓の開け方等入居者も参加して昼夜想定で行っている。訓練後には意見を出し合い反省を次回に繋げている。地域との協力体制と備蓄品についてはこれからの課題となっている。	町内会や消防団、ボランティア等へ働きかけたり、備蓄品の種類や量、薬等について職員間で意見やアイデアを出し合い検討することを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアのなかでもプライバシーの配慮には注意しあっている。また人格を尊重した言葉がけもカンファレンスなどで再確認しあっている。施設内の写真の掲示なども家族に確認している。	入居者一人ひとりの自発的な意欲を大切にしている。職員側の立ち位置や意識でプライバシーや尊厳を損ねないように考えている。場面場面で環境を整えたり、声かけの言葉選びで対応を工夫している。形だけの儀礼ではなく基本を大切にその人に寄り添いながら生活歴を尊重した対応を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中で要望をくみ希望がかなうよう支援している。言葉では十分に表現できない場合でも表情や全身での反応を注意深く見守り自己決定を導いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの望んでいるペースにあわせた暮らしを支援したいと考えている。レクリエーションの参加など声掛けはするが強要はしていない。がほとんど参加されている。意外な面を発見することがありそれをその後のケアに活かしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装には常に気をくばり清潔感のあるもの着心地のいいものを本人と話して決めている。男女問わず散髪・髭剃りには気を配り清潔感を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや洗い物などの作業をお願いすることが多い。献立は家庭料理中心に行事には特別メニューをたてている。すき焼きなべを囲んだりホットプレートでお好み焼きを焼いたり一緒に作り一緒に食べる機会を増やしている。	本人にとって無理のない食事形態や量、味の変化を工夫し、調理の音や匂い、動きなど五感を使い感することを大切にしている。入居者に応じて職員がテーブルを手作りし、安全に食事ができるよう配慮している。また、入居者が献立を見ることができるようテーブルに置いている。食後は、入居者が片づけしやすいよう移動式棚を活用し、それぞれができることを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・刻み食・ミキサー食とスタッフ全員が利用者それぞれに合わせて工夫している。大切な水分補給がスムーズにできるよう形態をかえたり食器も工夫を重ねている。食事チェック表を活用、毎月の体重測定もおこないます。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	以前に比べ口腔ケアの大切さを認識し注意をはらっている。そのために業務時間の見直しもした。起床時や毎食後の口腔ケアを本人を中心に職員が手伝う形でおこなっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々排泄パターンが異なることを全職員が把握している。オムツ使用のかたも尿意便意の訴えのない方も可能な限りトイレへ誘導している。使用する下着やパッドも随時検討している。	トイレは手すりや手拭のペーパーが設置され広くて明るい。また、入居者が迷うことのないよう、分かりやすく表示している。個々の排泄状況を把握し、本人の状態など総合的に捉えてタイミングを逃さないよう誘導している。ホームでの本人の私的な時間を大切にしたいとの想いから、食品や運動などを工夫し排泄の自立に向け取り組み、一律の排泄用品でなく個々に応じて検討している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用される方も半数はいるがこまめな観察と調整を看護師のもとで行っている。下剤に頼らなくてもよいように適度な運動と牛乳やヨーグルトなどの摂取を多くし自然なお通じを促すようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニット間で交合に沸かし毎日入浴できる体制を整えているが自由にはいかない現状である。身体状況にあわせて安全に配慮し必要なときは2人介助を行っている。ゆずを浮かべたりマッサージをしながら入浴していただくこともある。	浴槽は檜風呂で、本人の希望する時間での入浴や毎日の入浴等にも対応している。一番風呂を要望する方には湯を張替えている。入浴時間は午前、午後に行い、個々の希望に沿っている。その人らしさを大切にし、安心して寛ろいで入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりをよく観察し昼寝に誘ったり食事と食事の合間に横になっていただいたり時間をとってもらう。寝付けられない方には温牛乳を飲んでもらったり居室を後にするときは「いつでもよんでください」と声をかけたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がケースにはさんでありいつでも確認できるようにしてある。処方が変わったときは申し送りや業務日誌で全員が確認しその後の変化も伝え合っている。服薬確認は職員が必ず行い誤薬には細心の注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なじんだ草花の手入れや掃除を好まれる方は一緒に楽しんだり少し距離をおき見守ったりしている。お酒の好きな方は1ヶ月に1度職員と外出し飲酒の機会を設けるようにした。また話し相手も大切な役割だと思っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の風情を実感していただけるようマイクロバスを借り出かけた喫茶店やスーパーへの買い物、家族と協力しながら外食を支援したり、帰宅願望があるときは一緒に自宅に付き添ったりと職員も協力しながら出来る限りの対応をしている。	体調や天候に配慮しながら戸外に出ている。訪問時には、広い敷地内で風に受け木々の揺れる様や音を聴きながら散歩を楽しむ入居者の姿が見られた。食料の買出し、車でのゴミだし、買い物、喫茶店、外食、床屋等、本人の希望に沿った支援を日常的に行っている。四季折々に出かけることや家族、ボランティア、近隣の施設の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため施設側で預っている方がほとんどである。お金が手元にないため心配される方もあり今後は所持したり使える支援をおこないたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話していただいている。ダイヤルを押すお手伝いをしたりゆっくり話せるように腰掛けを用意したり、電話が事務所内にあるためそっと席をはずしプライバシーに配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	同じ空間のなかで9人の利用者一人ひとりの感覚に配慮するのは難しいが居心地よく過ごせるように努めている。生活時間の長い居間は季節感を出すようにしている。また日常の風景の中で写した写真を張り関心をもたれている。	広くて段差のない玄関や随所に設置した手すりにより廊下、トイレ、浴室等は安全に移動できる。足元から温まる床暖房や和室があり、思い思いに過せる椅子も設置されている。外出や外食の写真、季節に応じた大きなちぎり絵、雛人形の手作り作品等が飾られ、皆が集う空間となっている。日当たりのよいウッドデッキは掃きだし口にあり、外への広がり開放感のある場所となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先の縁側は皆でのひなたぼっこ、気のあう利用者同士の会話、ひとりで考える空間とその時々で役割を変えている。食卓席の配置やソファの配置もそのときに応じた居心地良い空間にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思うように持ち込んでいただいているがテレビやラジオや小物などの程度である。家族が自宅と同じようにしたいと机やイスを持ってこられたこともある。ベッドでの生活の多いかたは職員が整理整頓をこころがけている。	本人と家族が話し合い、使い慣れた机や椅子、ラジオ、目覚まし時計等が持ち込まれ、居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫されている。今までの生活と同じように布団を敷いて寝ている方もいる。造り付けのクローゼットを使用することで整理整頓ができ、混乱を招かない居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して暮らせる環境、利用者が自由に動ける環境、危険への配慮や整備はアイデアを出し合い日々工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900634		
法人名	アイミ株式会社		
事業所名	グループホーム ソブエピア(藤の間)		
所在地	愛知県稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成22年1月17日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukusi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者ひとりひとりの今の気持ちを第一に考え業務はあとまわしにしてその時々のお気持ちに添ったケアや要望を優先している。そのため職員間で情報交換を活発におこない時には両ユニット間で協力しあい取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員とともにつくりあげた利用者の立場にたった理念を毎朝の申し送りで唱和しながら意識の統一を行なっている。理念が形式的にならないよう常に頭におき利用者と接するようつとめている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会には加入している。回覧板は回っていないが広報誌を月に2回届けてもらう際に情報交換している。保育園との交流を始めることができたが地域行事に積極的に参加できていない。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を行なうことで地域のかたに認知症に対する理解を求めている程度である。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度家族会も兼ね開催している。出席者の方々には意見をいただきサービスに反映できるよう努力している。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>今年度より市役所の方にも参加していただいている。ご家族にも説得力のある説明ができ有意義であると感じる。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵をかけない暮らしを支援できるよう職員が常に目配りし情報交換しながらケアしている。言葉や態度での拘束もありうることもカンファレンスなどで話しあい理解を深めている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に対する意識は職員に浸透している。日頃の言動にもお互いが注意をはらい未然に防げるよう努めている。ストレスを1人で抱え込まないよう職員の話聴き一緒に考えるようリーダー職も配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の必要な該当者がなかったことから管理者、職員ともに理解が薄く万全の体制とはいえない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明をこころがけているためトラブルはない。介護報酬の改定などで利用料が増加する場合なども不安や疑問に納得できる説明をおこなっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見や要望を問いかけ言い出しやすい雰囲気づくりに配慮している。言い出しにくいかたに配慮し玄関に意見箱を設置している。いただいた意見はできるだけ早急に対応するようこころがけている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年全体ミーティングをおこない職員の要望、率直な意見をきいているが反映されているという意識は薄い。日常のかかわりの中で生まれる職員の気づきやアイディアは出来る限り取り入れるようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自己評価に取り組み管理者の評価・報告とあわせて代表者に伝えている。必要に応じて個別に対応もしている。可能な範囲で職員の意見を汲みあげ環境の整備に努めているがまだまだ課題が多い。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望も大きく研修の機会を多くしてきた。研修に参加した職員からは報告会の時間を設け皆に伝えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入し、他事業所との意見交換や交流をおこなっているもののまだまだ機会は少ない。近隣の施設との相互訪問はある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人と向き合い思いや不安を受け止め安心感を持っていただけるよう努めている。また何気ない会話の中から生活状況やその背景を理解するようこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場にたって何を望んでいるのか十分に聴き事業所としてできる事を伝えながら意向に添うよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情をもとに早急な対応を見極め可能な限りの対応・方策を検討できるだけ柔軟な対応をこころがけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されているという気持ちをなるべく取り除けるよう理念でもある「できる事を増やしましょう」という支援を大切にしている。また利用者から教わる機会を多くつくるように努めともに支えあう環境づくりを目指している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れていても様子が伝わるようにこまめに報告・相談し絆を感じながら生活できるよう支援している。来訪時にはご本人とご家族の潤滑油になるようこころがけご家族との外出などの実現にむけての支援にも努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前より通っていた病院・スーパー・喫茶店などの利用しなじみの人との交流の場にしている。昔の友人が気軽に面会できる雰囲気づくりはしているが実際の面会はわずかである。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の良し悪しを職員は把握している。様子を見ながら孤立しないよう職員が間に入り仲をとりもち円滑な関係の調整役となっている。席や場所を準備するときは利用者の性格や相性に配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても機会があれば様子を見にいたりご家族から話をきいたりして関係を継続している。情報は細かく伝えダメージを少なくするようこころがけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションのなかで意向を確認しスタッフ間でよく話し合い出来る限り実現している。意思疎通が困難な場合でも表情やしぐさから汲み取る努力をしたりご家族から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人や家族から生活歴・習慣・好みなどを聴いている。できることは継続できるよう(ふとんでの生活など)配慮している。また入居後も関わりの中での把握に努め時間をみでは個人カルテ内の情報を再確認しあっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムにこだわるのではなく一人ひとりの意向に添えるよう考えその日の体調などに応じ臨機応変な生活をしている。そのため毎朝の申し送りは大切な時間である。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月という期間にとらわれず心身の変化・本人の思いに応じて見直しを行なっている。月に一度のカンファレンスでは居室担当者を中心に職員間で活発な意見交換をおこない反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルへの記録で情報の共有をしている。食事・水分・排泄等のチェック、また観察したこと感じたことなど細かく記入している。各フロアには細かなことも申し送れるよう伝言ノートを作り活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のケースにあわせ相談しながらできるだけ柔軟な対応をこころがけている。ご本人だけでなくご家族も含めた支援をと考えている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設のバスを借り大人数での外出を実現したり夏祭りなどの行事への参加をしている。警察や消防との連携はこころがけているが地域資源をまだ上手に生かせていないのが現状である。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居まえからのかかりつけ医の希望があったり要望に応じてきめ細かく対応している。ご家族と協力し受診対応をおこない必要であれば同行したり情報を伝えたりしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がおり利用者の持病や普段の様子を把握している。介護職員の一人ひとりも体調の変化を見逃さず細かな相談・指示を受け連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し情報交換に努めている。主治医との関係づくりも積極的におこない早期退院へむけ連携をとっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にともなうアンケートに基づき事業所のできる限りの支援や方針については理解いただいている。心身状態の変化に応じて随時意思を確認しながら取り組んでいる。体制が整っておらず看取りはおこなっていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルが目のつくところに貼ってある。個別の対応マニュアルを作成中。救命救急法の講習も行なっているものの不安のある職員がほとんどため今後の課題である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練・消防訓練を定期的に行っており実践力がついてきたと自覚する職員も多い。様々な災害を想定しなお一層の備えや体制の整備が必要である。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛け・排泄時などのプライバシーの配慮、入室時のあいさつなどをこころがけ尊厳をそこなわない支援に取り組んでいる。馴れ合いになってしまうなか個人情報に対する意識などもふくめ職員間で確認しあい改善にむけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表現しやすい雰囲気づくりはこころがけている。意思表示が困難な方・判断が難しい方でも2択にして選んでいただいたり表情から気持ちを汲むよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の体調にあわせて相談しながら対応している。焦らすことなく待つことを心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服などご自分で選べるかたは希望を聞き支援している。男性の方は朝の身だしなみとして髭剃りを欠かさない。外出時には帽子やひざ掛けなどの配慮をこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは職員が決めているが誕生日や行事のときはできるだけ利用者の希望をくんでいる。調理の補助や後片付けは利用者の大変な役割となっている。不定期であるがおやつにドラ焼きを作ったり外食に出掛けたり鍋をかこんだりとの楽しみを増やしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのペースを把握しその日の体調や状態の変化にも柔軟に対応している。水分摂取のしにくい方にはゼリーにしてみたり好きなものを裏ごしやミキサーにかけ食べやすく工夫を重ねたり栄養バランスを考え手作りでおいしく食べていただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で行なっている。利用者によってはガーゼや口腔ケアティッシュを使ったり手助けしながら口腔内の観察を行なっている。また入れ歯は毎日洗浄液で清潔を保っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみチェック表を確認しながらその方に応じたタイミングで誘導やおむつ交換を行っている。紙パンツから布パンツへ変更したり使用するパットの種類も常に検討している。また二人対応でトイレに座っていただく方もいる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然なお通じのために毎日のメニューに牛乳やヨーグルト・ゼリーなどを取り入れている。水分量にも配慮。毎朝のラジオ体操や散歩もこころがけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひのきの家庭浴槽で一日おきに入浴をしていただいている。利用者によっては毎日入浴していただいたり順番に配慮しお1人ずつゆったり入浴できるよう支援している。利用者の状態によっては二人で介助し安全におこなっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や体調に合わせて個別に声掛けしたり希望を確認し自然なリズムができるようにしている。車イスの方の居眠りをみかけたら声をかけ横になっていただいたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの処方箋コピーを個人ファイルにはさみ常時確認できるようにしている。誤薬のないよう個人ケースに仕分けし処方の変更があれば職員に到達その後の変化を報告しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いきいきと生活していただく場面をふやせるよう趣味や好みを把握し家事のお手伝いをお願いしたり草花の世話などで知恵をいただいている。午後両ユニット合同で歌や体操などのレクレーションに興じたり食事に向いたりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望を優先し日用品の買い物や外食などの支援に努めている。車イスでも喫茶店や外食にでかけられるようまた季節ごとに黄葉などに出掛ける機会をつくり心身のリフレッシュをこころがけているが体力のない方は日光浴など限定されてしまっていたが秋には全員での行楽が実現した。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理している利用者はみえるが現金はほとんど持っていない。買い物同行時など一時的に支払ってもらってはいる。職員間でも支援に取り組もうとの意見がでている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人からの電話がいつでもできるよう支援をしている。できない方は母の日のプレゼントなどのお礼状を絵手紙で作成したはがきを活かし代筆代行している。家のことが気になる方には時には自宅まで車で同行することもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節ごとに職員と利用者の手作りの作品で飾りつけをしている。カウンターキッチン越しにひろがる調理のにおい、旬の食材を味わうことで生活しているという意識をもっていただけるよう考慮している。また職員同士の会話が耳障りにならないようこころがけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル席だけでなくテレビを観ながらソファでくつろいだり玄関先の縁台でひなたぼっこや雑談を楽しんだり時にはひとりで時には気の合う者同士思い思いの時間を過ごせるよう常時工夫をかさねている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には造りつけの家具とベッドがある。なじみの家具の持ち込みは少ないので殺風景ではあるが家族の写真を置いたり使い慣れたテレビやラジオを持ち込んだりベッドの位置をかえたりと居心地は配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに目印をつけ理解しやすくしたり変化する身体状況に考慮し絶えず環境整備に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ソブエピア

作成日: 平成23年4月12日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	チームケアの実現	利用者さまが安心して暮らせる空間づくり。	利用者さまとのコミュニケーションを増やし「一緒に」「寄り添い」すごす。	12ヶ月
2	66	〃	スタッフが楽しく働けるチームづくり。	スタッフ同士のコミュニケーションを増やし「仲間」として「協力」しあう。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。